

平成 26 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：名護市

協定締結集落名：名護（城、辺野古、汀間）

交付金額：23,120千円（うち平成26年度交付金額4,624千円）

協定参加世帯数：34人（うち漁業世帯34人）

（参考）集落漁業者平均所得：721,568円

2. 協定締結の経緯

本市の漁業は、県内でも有名なピトゥー漁をはじめとし、一本釣り、定置網、刺し網等様々な漁法を用いて営まれてきた。3面の豊かな海域が広がりそれぞれ特色がある漁場は、漁業者がこれを保全するとともに周辺水域の有効利用を図ってきた。しかし、自然環境の悪化などによる漁獲量の減少や、魚価の低迷による、漁業者の所得が低下し、本市の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念がある。

このため本市は、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、必要な場合は既存の慣行を見直し、漁場の合理的な利用や新技術・業法の漁法の導入などに取り組める環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施し、地域漁業の活性化及び漁獲高の向上を目指して離島交付金による漁業再生活動に取り組む事とした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

・種苗放流

シャコ貝の資源回復を図るため、ヒメジャコ1,000匹を放流した。

・浮漁礁製作設置

マグロ類の漁獲量の向上を図るため、浮漁礁を1基制作し、設置した。

・イカ産卵床の設置

近年漁獲が減少しているアオリイカの漁獲量の向上を図るため、イカ産卵床24基を設置した。

- ・新たな漁場開拓

イルカ漁は、これまでの漁場以外での目撃情報が多くあり、今後の漁獲量向上を図るため、他海域の生息調査を行った。

- ②集落の創意工夫を生かした取組状況

漁家所得向上を図り、漁業集落を活性化させるために水産物直販所と連携し、名護桜まつり開催日に魚食普及イベントを実施した。

4. 取組の成果

- ・種苗放流

現時点では放流したばかりなので、今後追跡調査を行い経過観察する。定着すれば、個体数の増加、資源回復が期待できる。

- ・浮漁礁製作設置

浮漁礁は設置後3カ月以上経ってから魚が集まり始めるので、追跡調査を行い、経過観察する。今後、魚が集積されれば、マグロ類の漁獲量増加に期待できる。

- ・イカ産卵床の設置

昨年度設置した産卵床では産卵が確認できているので、今後の資源回復に期待できる。

- ・新たな漁場開拓

今回は2日間にわたり、伊平屋島沖にてイルカの生息調査を行った。今後も継続して調査を行っていくとともに漁獲量向上に繋げていきたい。

- ・魚食普及活動

子供からお年寄りまで多数の来場者に地元水産物の地産地消を推進することができた。今後の消費拡大に期待が持てる。



種苗放流（ヒメジャコ）



浮漁礁製作設置



イカ産卵床の設置



新たな漁場開拓



魚食普及活動



魚食普及活動